

講義ユニット名	小児	所属科目名	全身性疾患制御学
講義ユニット 責任者	こばやし まさお 小林 正夫	所属	小児科学 (内線 5210)
		メール	masak@hiroshima-u.ac.jp
講義ユニット コーディネーター	かわぐち ひろし 川口 浩史	所属	小児科学 (内線 5212)
		メール	hrkawa@hiroshima-u.ac.jp
授業方法	講義形式。スライドの提示、配布資料による実習、黒板書きの複写などDEGSシステム以外の方法も用い、学生自身が頭と手を使い授業を完成させる。期間中、小児科的な思考方法のトレーニングとして、ミニ・チュートリアルも実施する。		
概要	小児科学の要諦は、小児の特徴である「成長」「発達」の過程を理解することにある。これを基礎に据えた上で、新生児期から思春期にかけて問題となる内科的疾患および周辺領域の疾患について、臓器別に系統立てて講義を進める。		
講義ユニットの 到達目標	<p>※ 各器官の病態、診断、治療については、全身すべての器官が対象となるため、全目標項目の列挙はしない。各回の講義は下記のタイトルで行い、全体を通じて医学科学生に必要な臨床小児科学が漏れなく習得できるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎小児科学総論 ◎小児保健 ◎成長・発達障害 ◎新生児疾患 ◎循環器疾患 ◎腎・泌尿器疾患 ◎神経疾患 ◎内分泌疾患 ◎先天代謝異常 ◎ウイルス感染症 ◎細菌感染症 ◎感染免疫 ◎アレルギー性疾患 ◎リウマチ性疾患・膠原病 ◎免疫不全 ◎血液疾患 ◎造血器腫瘍 ◎固形腫瘍 ◎造血幹細胞移植 <p>※ 他ユニットでは挙げられない本ユニット固有の到達目標は以下の通りである。</p> <p>胎児の循環・呼吸の生理的特徴と出生時の変化を説明できる。</p> <p>主な先天性疾患を列挙できる。</p> <p>新生児の生理的特徴を説明できる。</p> <p>新生児仮死の病態を説明できる。</p> <p>新生児マススクリーニングを説明できる。</p> <p>新生児黄疸の鑑別と治療を説明できる。</p> <p>新生児期の呼吸障害の病因を列挙できる。</p> <p>正常児・低出生体重児・病児の管理の基本を説明できる。</p> <p>低出生体重児固有の疾患を概説できる。</p> <p>乳幼児の生理機能の発達を説明できる。</p> <p>乳幼児の正常な精神運動発達を説明できる。</p> <p>乳幼児の保育法・栄養法の基本を概説できる。</p> <p>乳幼児突然死症候群(sudden infant death syndrome <SIDS>)を説明できる。</p> <p>小児の精神運動発達及び心身相関を説明できる。</p> <p>小児の栄養上の問題点を列挙できる。</p> <p>小児免疫発達と感染症の関係を概説できる。</p> <p>小児保健における予防接種の意義と内容を説明できる。</p> <p>成長に関わる主な異常(小児心身症を含む)を列挙できる。</p> <p>児童虐待を概説できる。</p> <p>小児の診断法と治療法における特徴を概説できる。</p>		

	<p>神経発達障害群（自閉症スペクトラム障害<ASD>、注意欠如・多動障害<ADHD>、限局性学習障害、チック障害群）を列挙できる。</p> <p>思春期発現の機序と性徴を説明できる。</p> <p>思春期と関連した精神保健上の問題を列挙できる。</p> <p>移行期医療の現状と課題を説明できる。</p> <p>体液の量と組成・浸透圧を小児と成人を区別して説明できる。</p> <p>乳幼児と小児の輸液療法を説明できる。</p> <p>小児白血病と成人白血病の違いを説明できる。</p> <p>脳性麻痺の病因、病型、症候とリハビリテーションを説明できる。</p> <p>クループ症候群と急性喉頭蓋炎の病因、診断と治療を説明できる。</p> <p>気管支喘息（小児喘息を含む）の病態生理、診断と治療を説明できる。</p> <p>新生児呼吸促進症候群の症候、病態、診断と治療を説明できる。</p> <p>便秘症、乳児下痢症を説明できる。</p> <p>神経芽腫を概説し、小児腹部固形腫瘍（腎芽腫、胚芽腫、奇形腫）との鑑別点を説明できる。</p> <p>麻疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。</p> <p>風疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。</p> <p>水痘・帯状疱疹の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。</p> <p>単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、咽頭結膜熱、伝染性単核(球)症を説明できる。</p> <p>Kawasaki病（急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群）の病態生理、症候、診断と治療を説明できる。</p> <p>原発性免疫不全症の病態、診断と治療を概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システム、もしくは準ずる出席把握方法を用い出席をとり、3分の2以上の出席がない場合は試験（本試験、追試験とも）の受験資格を与えない。
評価項目	到達目標の達成度 （基本的理解と知識の応用）
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は60点とする。
推奨参考書	標準小児科学（第8版、医学書院）、小児科学（第10版、文光堂）、小児科学（第3版、医学書院）、Nelson Essentials of Pediatrics(7th)